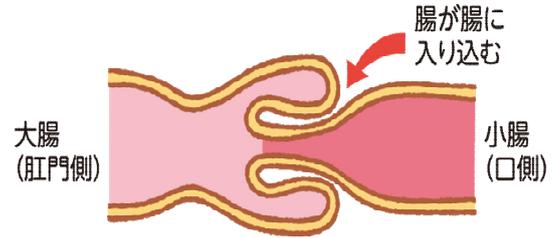


ロタウイルスワクチン接種時の注意事項について

【ワクチンと腸重積症について】

腸重積症は、ロタウイルスワクチンの接種に関わらず、生後3か月～2歳未満のお子さんによくみられる病気です。特に生後6か月ぐらいから発症者が多くなり、0歳児では1,000人に1人ぐらいの割合で発症します。症状は、右図のように腸が腸に入り込み、閉塞した状態になるもので、発症後、早く治療すれば、ほとんどの場合、手術をせずに治療できます。



最初に作られたワクチン（現在は使用されていません）は接種後に腸重積症が多発し、問題となりましたが、この時は発症者の約8割が接種の推奨時期を過ぎた後に接種を受けていました。現在使用されているワクチンは、日本での臨床試験では腸重積症の発症増加を認めませんでした。海外では、発症者が増えると報告されているものがあります。（WHOの報告では10万人に1～2人増）

このようなことから、腸重積症の発症リスク軽減のため、初回接種は14週6日後までに行うことが推奨されております。特別な理由でそれまでに受けることができなかった場合は、医師とご相談ください。

また、初回接種後の約1～2週間は発症しやすいという報告もありますので、特にその期間はお子様の体調をよく観察してあげてください。「突然はげしく泣く」、「機嫌が良かったり不機嫌になったりを繰り返す」、「嘔吐を繰り返す」、「血便がでる」、「ぐったりして顔色が悪い」などの症状が一つでもみられた場合や、いつもと様子が違うと感じた場合は、速やかに医療機関を受診させてください。